

北中城村における「パッションフルーツ産地育成」 ～排水不良の農地を克服して単収アップを目指す～

活動期間: 令和2年度～(継続中)

- 北中城村安谷屋地区では、畑地かんがい施設を整備する計画があり、地域の中核的な生産者の育成や、付加価値の高い営農体系の確立が課題。
- このため、地域農業振興総合指導事業を導入して、産地支援体制を確立し、「パッションフルーツ産地育成」の課題に取り組んだ。現地技術実証展示ほや栽培講習会を通して、優良農家を育成し、栽培技術、経営管理を支援。特に「高畝栽培」による排水対策を重点指導。
- その結果、立枯症の発症率が大幅に改善され(46%→5.6%)、単収800kg/10aを確保。(地域の単収 500kg/10a)

具体的な成果

普及指導員の活動

1 産地支援体制の確立

- 推進体制の整備、関係機関と総合指導チームを設立
- 農業生産者の実態把握、意向調査に基づく産地課題整理・活動計画表の作成



2 排水性が悪いほ場での生産性向上

- 現地技術実証展示ほ(高畝施設)設置前の立枯症の発症率は46%(33株/72株)であったが、高畝設置後は5.6%(4株/72株)と大幅に改善された
- 単収向上・品質向上
- ・単収 800kg/10a(地域の単収 500kg/10a)
- ・大玉(L玉以上)が増え、販売価格が上昇傾向にある
- ・新たな取引先も増え、地域活性化に寄与



3 新たな担い手の育成

- 現地技術実証展示ほ(高畝栽培)の波及効果で、新規就農者が高畝を設置し、パッションフルーツ栽培を開始した。

令和2年度

- 地域農業振興総合指導事業導入にあたり、関係機関と総合指導チームを設立
- 農業生産者の実態把握、意向調査
- 排水不良農地において、現地技術実証展示ほ(高畝施設)を2カ所(施設、露地)に設置
- リーダー研修会、パッションフルーツ栽培技術向上講習会、現地検討会の実施
- 「高畝栽培」による排水対策を重点指導
- 経営管理支援(経営モデル事例の調査)
- 生産者、加工業者、関係機関等と連携し、パッションフルーツ1次加工製造体制支援

令和3年度

- 関係機関と連携し、総合指導チーム会議を定期的開催
- リーダー研修会、パッションフルーツ栽培技術向上講習会、現地検討会の実施
- 現地技術実証展示ほ設置
- 重機(小型パワーショベル)を活用して高畝施設を設置
- 経営管理支援(経営モデル事例の調査)
- パッションフルーツ1次加工導入に向けた個別支援(HACCP支援等)

普及指導員だからできたこと

- ・関係機関、推進委員と連携し、産地育成の合意形成を図ることができた。
- ・現地技術実証展示ほの波及効果で、新たな担い手を育成することができた。

沖縄県

北中城村における「パッションフルーツ産地育成」 ～排水不良の農地を克服して単収アップを目指す～

活動期間：令和２年度～（継続中）

１．取組の背景

北中城村の農業振興地域農用地では、畑地かんがい施設の整備事業やソフト事業活用によるパイプハウスの導入により園芸品目の生産振興を図っている。中でもパッションフルーツは、需要が高い作物として今後の生産拡大が求められており、安定生産技術の平準化や担い手農家の育成、付加価値の高い営農体系の確立が課題となっている。

普及センターでは、北中城村の農業振興と地域活性化に向けて、①産地支援体制の確立と産地リーダーの育成、②パッションフルーツ産地育成、③地域資源を活用した収益力の向上の「３つの課題」を設定し、関係機関との連携のもと総合的に指導を行うこととした。

２．活動内容（詳細）

関連予算：地域農業振興総合指導事業（R2～R3）

令和２年度

■地域農業振興総合指導事業導入にあたり、北中城村農林水産課、JA 北中城支店、JA 営農振興センター、普及センターと協議の上、総合指導チームを設立した。

■産地の実態把握を行うため、北中城村果樹生産者 15 戸を対象に意向調査を実施。総合指導チームで、問題点や課題を共有しながら産地の課題整理と役割分担の明確化に取り組んだ。

■排水不良農地において、現地技術実証展示ほ（高畝施設）を施設と露地の２ヵ所に設置し、高畝栽培の実証に取り組んだ。昨年は排水不良のため立枯症が多く発生していたが（46%（33 株/72 株））、高畝設置後は 5.6%（4 株/72 株）と大幅に改善された。

■リーダー研修会は、県内先進事例として「糸満市におけるパッションフルーツの PLV（トケイソウ潜在ウイルス）フリー化へ向けた取組み」をテーマに講話を行った。生産者のウイルスフリー苗への関心が高まり、村内でも同苗を導入することとなった。

JA 果樹部会の定例会（毎月第 2 木曜日）に合わせてパッションフルーツ栽培技術向上研修会、現地検討会を開催した。村内のみならず近隣の市町村からも多数参加し、農家同士の研鑽の場となった。

■現地技術実証展示ほで得られた収益性成果を産地育成に還元させるため、産地コンサルティング及び個別経営体支援を行った。

■パッションフルーツ加工原料の確保に向けて、生産農家、関係機関等の意見交換を行った。村の委託事業（食材ブランド化推進事業）でパッションフルーツの商品化、ブランド推進に取り組んでおり、過去 4 年間の 1 次加工実績より問題点

と課題を洗い出し、「加工で地域興し構想」、「めざす姿と課題」の共有化を図った。

令和3年度

■関係機関と連携して総合指導チーム会議を定期的に開催し、事業推進上の課題や問題点を共有しながら課題推進に取り組んだ。各々の役割分担の下、意見交換することで関係機関の連携強化に繋がった。

■リーダー研修会は、県内先進事例として「沖縄県農業大学校及び沖縄県農業研究センター名護支所のパッションフルーツ施設の動画視察」、「クロマルハナバチを用いたパッションフルーツの虫媒授粉の検証及び収益性の評価と複数品目への利用」をテーマに動画で講話を行った。

パッションフルーツ栽培技術向上講習会は、「自分でできる土壌の排水性確認方法」、「肥料と株管理のポイント」、「糸満市パッションフルーツ生産者の動画視察」をテーマに、座学と現地検討会を合わせて行った。

コロナ禍で普及活動が制限される中で、動画を活用した講座形式が進んでいる。

■排水不良農地において、2例目の現地技術実証展示ほを設置。労力軽減のため、重機（小型パワーショベル）を活用して高畝設置に取り組んだ。前年度高畝との比較より、資材費及び労働費で29万円/10aの経費軽減が図られた。

■産地コンサルテーション2年目で、昨年度の現地技術実証展示ほ農家へ経営管理支援を行った。パッションフルーツの営農体系及び産地モデル事例として作成を進めている。

■パッションフルーツ加工原料の確保に向けて、関係機関で意見交換会を実施し、村内で加工できる体制整備の提案を図った。

村内農家でパッションフルーツ1次加工を計画している起業者へHACCP個別相談支援を行い、衛生管理の知識向上を図った。

3. 具体的な成果（詳細）

（1）産地支援体制の確立

地域農業振興総合指導事業導入にあたり、関係機関と総合指導チームを設立し、産地育成に向けた合意形成を図ることができた。農業生産者の実態把握、意向調査に基づく産地課題整理・活動計画表を作成し、産地の問題点や課題を共有しながら事業を推進することができた。

（2）排水性が悪いほ場での生産性向上

北中城村のパッションフルーツほ場の多くは地下水位が高く排水性が悪いジャーガル土壌で栽培が行われている。排水不良農地において、現地技術実証展示ほ（高畝施設）を設置し、高畝栽培の実証に取り組んだ。昨年は排水不良のため立枯症が多く発生していたが（46%（33株/72株））、高畝設置後は5.6%（4株/72株）と大幅に改善された。

地域の単収500kg/10aとの比較より、800kg/10aを確保し、大玉（L玉以上）が増えることで販売価格が上昇傾向にある。新たな取引先も増え、ふるさと納税返礼金として出荷する等、地域活性化へも寄与している。

（３）新たな担い手の育成

パッションフルーツの栽培志向者及び新規就農者へ、既存の施設の活用含め、栽培技術指導を行った。現地技術実証展示ほをモデルとして、自ら高畝施設を設置し、今期より栽培を開始している。

４．農家等からの評価・コメント

（北中城村 I 氏（JA おきなわ北中城支店果樹専門部部会長））

北中城村のパッションフルーツは 10 年以上前から栽培されているが、近年、生産者が減ってきている中で復活させたい思いがあった。

周囲の支えがあり満足のいく収穫ができている。品質・食味ともに自信をもって提供できる。少しでも多くの消費者に北中城村産の農産物を届けていきたい。北中城村といえばパッションフルーツと言えるくらい盛り上げていきたい。

５．普及指導員のコメント

地域農業振興総合指導事業を導入し、パッションフルーツ産地育成に取り組んで 2 年目であるが、役場や JA 等の関係機関の協力があり、スムーズに事業を進めることができた。他産地と比較すると規模は小さいが、現地技術実証展示ほ（高畝栽培）の波及効果で新たな担い手が増えるなど、少しずつではあるが、産地として盛り上がってきている。次年度も関係機関と一丸となって取り組んでいきたい。

６．現状・今後の展開等

事業期間は 3 年間であり、令和 4 年度が最終年度である。これまでの事業の取り組みや現地技術実証展示ほの成果を産地マニュアルとして作成し、産地育成に還元していく。